

# Self-Advocacy for Inclusion:

# A Global Report



OCTOBER, 2016

Inclusion  
international



## **Inclusion International**

University of East London

Docklands Campus

KD.2.03

4-6 University Way

London E16 2RD

Tel: 44 208 223 7709

Fax: 44 208 223 6081 [info@inclusion-international.org](mailto:info@inclusion-international.org)  
[www.inclusion-international.org](http://www.inclusion-international.org)

## 本人理事からのメッセージ

私たちはこの二年間、世界中の活動がどのように行われているか調べてきました。本人理事たちはヨーロッパ、アフリカ、アメリカ、中東、北アフリカ、アジア太平洋の五つの地域の各国から選ばれています。



メンバーはそれぞれ、違った国や地域のメンバーと会う機会がありました。そして本人活動についてたくさんの異なる方法や考え方を学ぶとともに、依然として本当の本人活動が何なのかを知らない多くの人たちがいることもわかりました。それぞれ異なるその国独自の本人活動を経験しています。一部の地域では活発に活動しています。でも、知的障害についての理解や認識不足が、本人達の発言を阻むような障壁となっています。時に人々は声を上げることを恐れます。私達には、知的障害について伝える技術や自信が必要かもしれませんが、家族や友達、ボランティアや有料の支援者たちから、本人活動が可能になるよう、励ましや良い支援も必要です。

私たちの中には、地域や個々の日常生活の中で、有意義な本人活動ができるように、これまで経験したことのないような支援を受けた人もいます。私たちは一緒に学び、力を合わせることができます。このレポートが本人活動の支援に役立つよう願っています。

私たちは人です。私たちには権利があります。私たちは誰もが同じ機会を持てることを望んでいます。私たちは私達の考えを分かちあえる機会を望んでいます。私たちは誰で、何ができるのか受け入れてくれる世界に住みたいのです。私たちは他の仲間たちも有意義な本人活動が可能になるように協力したいです。

デビッド・コーナー（アジア太平洋地域）  
クインシー・ミワイヤ（アフリカ地域）  
ミア・フアラール（中東・北アフリカ地域）

サラ・ピーカッド（ヨーロッパ地域）  
ルイス・ガブリエル（アメリカ地域）  
マーク・マベンパ（アフリカ新理事）

# 目次

最初に	.....	3
世界の状況について	.....	5
本人活動ってなに？	.....	14
良い支援ってなに？	.....	24
家族と本人活動	.....	30
包括的な組織	.....	37
未来に向けて	.....	53

# 最初に

2015年3月、国際育成会連盟の本人理事は、理事会にて以下の点について要請されました。:

- ・世界のそれぞれの地域で、“本人活動”として何をしているのか調査すること。
- ・刺激 (inspire) し、支援 (support) し、学ぶ (learn) ために、イベントや会合で国際育成会連盟を代表すること。
- ・本人活動におけるリーダーシップと支援のための原則と基準を作ること。

この動きは、2012年の総会にて、国際育成会連盟のメンバーが世界中の自主的な本人活動を支持し、強化することを、連盟に要請し始めました。

本人理事たちが世界中の個人や団体と話を始めると、彼らの予想以上に、この仕事が、複雑なものであることが明らかになりました。

世界各地で本人活動についての話し合いは増えていますが、一方で、人や地域によって、“本人活動”には様々な意味があるようです。

多くの組織やグループは、本人たちを養成し、支援していると主張し、一方では、本人たちが、彼らの組織のリーダーだと話してくれます。多くの場合、本人活動は映画を見たり、月に1回ダンスパーティーを開いたりする社交の集団であり、その他の本人活動は、施設のスタッフによって組織された団体のようです。しかし、一緒に本人活動を行い、コミュニティに変革を起こし、行政機関と一緒に問題提起やお互いの為に、支援や権利擁護の活動をしているといった印象的な話もありました。

また、私達は、本人活動を誰が支援し、どのように支えているのかも問いかけました。

## About the Global Study . . . . .

私達は障害のある人たちが、家族や有償の支援者、仕事仲間、友人からの支援を受けている事を聞きました。また、支援団体（組織）が本人活動を支援していることについても聞きました。時々、「支援（サポート）」と呼ばれるものはコントロールや保護のように感じる場合があります。世界の多くの地域では、ほんの少しの本人活動のための良いサポートや経験または訓練しかありません。

最終的には、彼らの仕事やリーダーシップにおいて、どのように組織（メンバーとその他の人）が関与しているのかまで、知りたいと思いました。また、本人たちが、理事会の役員、委員会、作業グループ、時には職員など異なる立場で、組織に関わっていることも分かりました。（本人たちが運営や導いている組織を含む）本人たちによる意味ある参加やリーダーシップを支援している組織の良い事例が挙げられますが、トークニズムの例があまりにも多すぎます。

※トークニズムとは大勢の中で少数意見が出しにくいことや、聞いてもらえない状態のことを言います。

この報告書では、私たちは、本人活動団体からの助言を得ており、本人活動を支える世界的な指針として記述するものです。

# グローバルスタディ について

過去2年間にわたり、私たちは、国際育成会連盟の会員である団体、世界70か国の公式、非公式問わず、新しく続々と設立される本人活動の団体、グループ、クラブや委員会と一緒に話し合いをしてきました。この話し合いは、国際育成会連盟の本人理事が直接訪問したり、会議、調査やスカイプによるインタビューを通して行われています。

まず最初に、国際育成会連盟の本人理事が集まり、本人活動とは？ 良い支援とは？ 家族や団体はどのように支援すべきなのか？ どのように支援できるのか？について世界的なディスカッションするために、質問事項を作成したり、協議したりしました。議論されたのは、本人と呼ばれることと運動として本人活動との違いと個人的な支援と本人活動のための支援の違いでした。これらの議論の過程から、調査やインタビューが進歩し、さらには本人活動についての事例や情報を集めることにも活用できました。

## 各地域での協議

各地域での協議は、本人理事がインタビューや調査を主導したり、各地域の本人活動の討論会やワークショップに参加したりしたいくつかの会議やミーティングで開催されました。

## About the Global Study . . . . .

### アフリカ



アフリカでは、数多くのワークショップや会議が開催され、この地域における本人活動の展望について聞くことが出来ました。インクルージョンアフリカは、2015年4月に、ケニアのナイロビで1日の本人活動フォーラムを行いました。このフォーラムの目的は、本人、支援者と団体の代表者を活性化し、活気に満ちた本人活動の声を届けることにありました。

このフォーラムには、12か国以上のアフリカ諸国から20名以上の本人たちの参加がありました。さらに、このフォーラムには、カンボジア、レバノン、オランダとペルーから本人たちが参加しました。支援者と団体の代表者たちの参加は、20か国以上から50名以上ありました。続いて開催された2015年12月のフォーラムには、アフリカの本人活動のリーダーたちを含む70名以上の参加者が、本人活動に関係する地域のイベントに参加するためにケニアを訪れました。10か国以上の国から本人たちが集まり、国レベルの本人活動の発展に向けて行ってきた努力から学習することを共有しました。

### 北米・南米



いろいろな会議や事前勉強会が開催され、私たちは、本人たちが、自分たちのグループにとって本人活動とはどのような意味を持つのかを考え、そして自分たち自身が関係している本人活動の効果について考える機会を持ちました。私たちは、グループがどのような活動をしているのか？や活動を成功させるための支援とは？ということを知りました。

➤ 2015年10月、ブラジルのサンパウロで、南米・北米の本人活動での成功事例や試行事例を、メンバーで共有するために、Reunion Estrategica de Autogestores en la Region de las Americas を開催しました。メキシコ、コロンビア、エクアドル、チリ、アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイそしてブラジルから、本人たちが参加し、この地域の10団体を代表しました。その他のイベント/相談は以下の事項を含みます。

- バリアフリーへの参加： アルゼンチン ティグレ地区での、ダウン症の人々に対する作り話や偏見を変える。
- カナダブリティッシュコロンビア州バンクーバーでの完全な市民権の主張
- SOY MI VOZ, エクアドル キュイトでのEncuentro Internacional de buenas experiencias de personas con discapacidad intelectual
- ペルー リマでのSociedad Peruana de Síndrome de Down VI taller Internacional de Formacion para Docentes と Encuentro Nacional de Familias 2016 Construyendo Ciudadania



## About the Global Study . . . . .

### アジア・太平洋地域



国際育成会連盟主催のカンボジアで開催された本人活動のワークショップに、75名以上の知的障害のある本人たちが参加しました。ワークショップは、カンボジアの本人活動と彼らの地域における本人活動のネットワーク、メコン地域ネットワークについて聞く機会となりました。



インドからは、Parivaarによって開催された本人活動フォーラムからの情報を得ました。

国際育成会連盟が支援する4名の本人たちが、バンコクで、International Disability Alliance（国際知的障害同盟）とInternational Disability the Development Consortium(国際知的障害発達協会)が主催した人権に関する研修イベントに参加しました。これらの経験（と異なる地域での同じような研修イベント）から、私たちは、複雑な議論に知的障害者が参加できる方法を構築しました。

## About the Global Study . . . . .

### ヨーロッパ



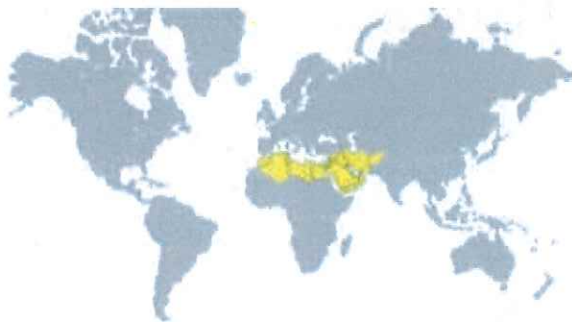
インクルージョンヨーロッパのEurope in Action(2015年ローマ、2016年リスボン)とヨーロッパの本人活動(EPSA)のHear Our Voices(2015年マドリッド)は、本人たちから本人活動の意味は?どのような支援があるの?やどのように団体が支援できるのか?そしてどのように維持しているのかを聴くことのできる良い機会となりました。ローマでは、本人活動と持続の可能性についてのセッションで、支援団体が本人活動を可能とし、更に強化する方法が示されました。

マドリッドで開かれたHear Our Voiceの会議では、国際育成会連盟の本人理事がヨーロッパでの個々人の経験とEPSAが地域で行った活動の方法の両方について、本人たちへのインタビューとグループでの討論を実施しました。マドリッドでのHear Our Voices会議に参加していた国際育成会連盟の本人理事のメンバーとアメリカ、インディアナポリスで開催されたArc of United States(アメリカの親の会)の本人活動シンポジウムをビデオで繋げることもしました。



## About the Global Study . . . . .

### MENA (中東・北アフリカ)



国際育成会連盟に加盟する中南米の国の会員により、本人活動について聞く機会を持つためにいくつかのワークショップや会議が開催されました。

国際育成会連盟と全国大会 U T A I M のチュニジアの会員により、一緒によりよい世界を目指すために会議が行われました。本人とその家族が参加し、本人活動の意味を一緒に考え始めました。

レバノンでは知的障害者と市民との関係を築く上でのバリア（障壁）と制限を考えるために、政治の関与についての2つの会議が、国際育成会連盟によって開催されました。

L A S A（レバノンの本人活動の組織）は本人、家族との支援者に向けて、中東・北アフリカで研修プログラムを持ちました。エジプトとチュニジアのセッションは、私たちの学習と相談に広く貢献しています。

本人活動の意味は、私  
があなたに教えてあげて、  
あなたが私に教えてくれる  
こと。

普段、知的障害者を  
見かけないけど . . . . .  
なぜ？

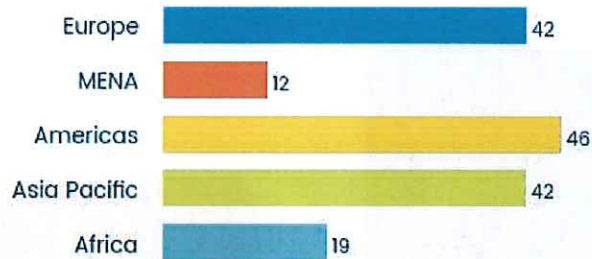
私は、家で手伝いをする用意は  
できています。でも、誰と時間を過  
ごしたいかは私が選びたい。

## About the Global Study . . . . .

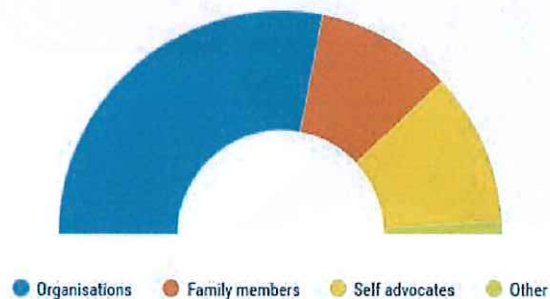
### 調査

調査は、現在、支援されている本人活動の詳細な方法を知るために私たちのネットワークに配布されました。

54か国、87団体から173の回答がありました。

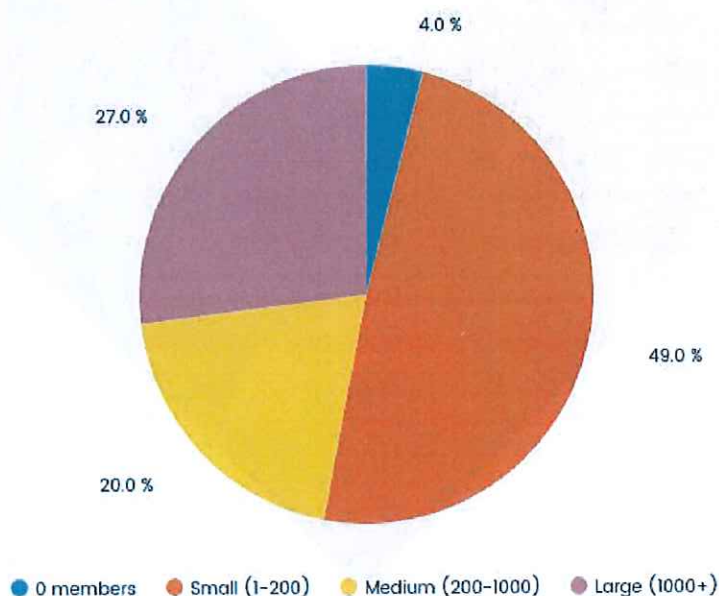


回答は、個々の本人、家族と親の会、本人とサービス提供者からでした。



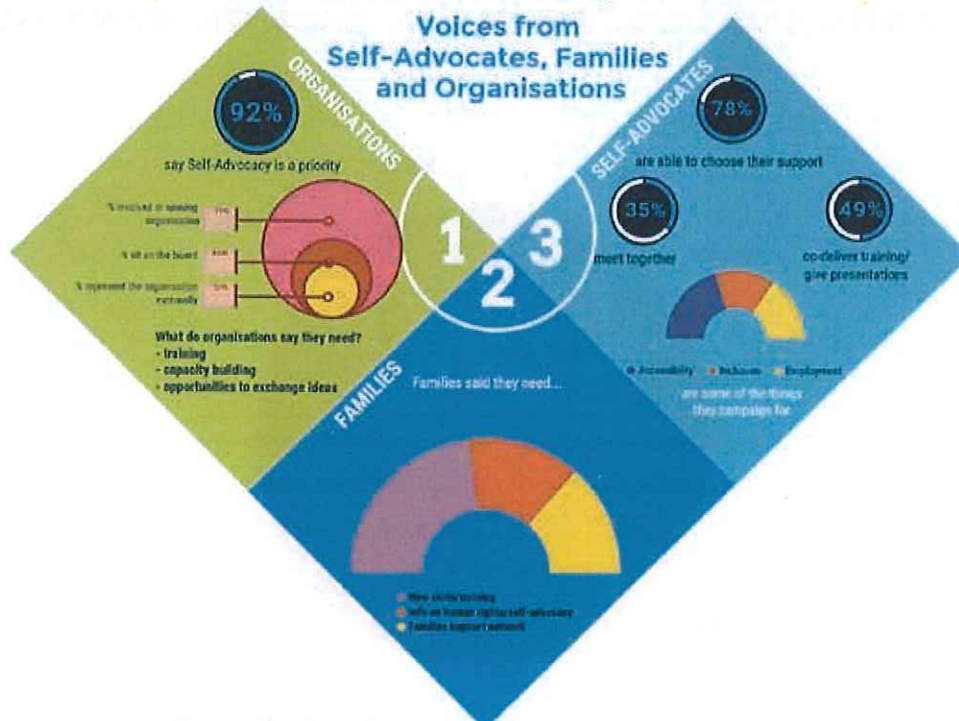
## About the Global Study . . . . .

この調査に参加した 49% の団体は、小規模な団体です。20%と 27%の団体は、中規模と大規模な団体となります。小規模団体には、非公式な本人とその家族のグループが含まれています。大規模な団体は、地域（市区町村など）、都や県、国の施設が含まれます。



5地域（ヨーロッパ、アフリカ、南米・北米、アジア・太平洋、中東・北アフリカ）に渡る視点からの回答から、小さな本人活動グループが立ち上げられ、発展し、より大きな規模のグループになると、本人活動で果たす役割と本人たちがリーダーシップを発揮し、活動を統括できるようになることが実証されました。

## Results at a glance



このレポート全体を含めて調査結果を見ていくと、本人活動が高まり、変化していていることが分かります。

### 一組織に関するインタビュー

調査参加者の回答を精査しているうち、本人活動を発展させ、支えている組織やグループが、どのような活動・資源・材料を活用しているのか、詳細を見出したいと考えました。組織とのインタビューから、実際の参加者や私たちが良い例であるような支援者の試み、および、皆で共有するにふさわしい素材の両方が明らかになりました。

国際育成会連盟は、世界各地の組織と関わってきました。私たちは、自分たちの経験（サービス提供者、本人活動、家族組織やグループを含む）を伝えたいと望んでいる団体と話してきました。その上で私たちは、各地からバランス良く、モデルを探りたいと考えました。

## About the Global Study . . . . .

私たちは、10の異なる団体から29名にインタビューを行いました。私たちはどのように本人活動を支援しているのか？そしてどのような方法や活動を取り入れているのかを聞きました。私たちは、支援のための資金集め、社会の姿勢、家族からの要望の調整具合をいった様々な試みについて聞き、組織で作り上げた方法を学ぶことができました。いずれの団体も、本人活動を強化するために、他の団体との情報やアイデアの交換をする機会を望んでいました。

「国際育成会連盟は、本人活動や経験を共有する場として、本人活動の経験を共有するプログラムを開催したらいいと思います。他ではどのような本人活動の動きがあるのかを知るために、実に有効な場になるとと思います。」

エチオピア

「国際的なつながりを強めるためにも、本人活動の交換プログラムを提案します。」

オーストリア

# 本人活動ってなに？

ひとり立っている人が、願いを抱き、声をあげる。するとそれは、多くの人々や社会全体にまでプラスをもたらすような変革を起こす力がある。

モーリシャス

私たちが、世界中のさまざまな地域の人たちやグループと話をする、本人活動がうまく作られている国や地域もあれば、本人活動がほとんど、もしくは全く機能しておらず、代弁も本人活動支援も見られない所もあります。でも、活動手段を知り、関心を寄せる知的障害者の声は強くあり、ますます高まってきています。

世界中で話をする中で明らかなのは、「本人活動は行動である」ということです。それは学ぶことでもあり、成長することでもあります。

本人活動は声をあげることです。(たとえ私たちが話せないとしても)。私たちの声に耳を傾けられ、そして私たち自身の生活をコントロールすることです。本人活動は私たちが自らの権利を知り、障害のない人々がそうであるように、地域の一員となることです。本人活動は、私たちの住む地域に変化をもたらすように、一緒に働きかけることです。



## What is Self-Advocacy? . . . . .

### 自分に力を付けること（エンパワーメント）と自信をつけること

知的障害のある人にとって、本人活動は、自分自身に力をつけ、自信の生活の中で、自己選択し、決定していくことから始まります。決定することの権利を学ぶことは、個々の生活で大切なステップとなります。「障害者権利条約12条」において、全ての障害がある人たちは、それぞれの生活において決定する権利があり、決定を下し、行動に移す際に支援を受ける権利がありますと謳われています。私たちが世界各地で聞いた本人活動を支援するさきがけの多くは個人個人に力を備え、自信をつけて、自分たちで上手く生活をしていけるようになることに焦点があてられていました。

### 仲間の助け（ピアサポート）と自己支援

私たちは、知的障害のある方たちが、グループに参加して、日々の挑戦において、意見を聞き、お互いに助け合っている事例を多く耳にしました。こうしたグループは映画や地元ショッピングセンターに行ったり、ダンスを企画するなど社交的なグループとして活動が始まっています。その中のいくつかのグループでは知的障害のある人の生活（人間関係、職業、住居等）から問題や目標を考える機会を設けています。お互いに知り合い、学び合うにつれ、自己主張するスキルを身に付けるために、お互い助け合うようになります。このようなグループは、それぞれの生活での挑戦に応ずるために、支援を提供できています。

“ 本人活動を行っている本人がサービスの利用者によって（それぞれの施設で3か月おきに）サービス利用者の抱えている問題点やうまくいっていることについて話し合い、本人活動をしている本人が、その話し合いで出た内容を、サービス利用者のアクションプランを作成し、可能な範囲でプランの変更を効果的にするサービスマネージャーにフィードバックしています。 ”

## What is Self-Advocacy? . . . . .

### 行動のための権利擁護

みんなが集まり、自分たちの経験や挑戦を分かち合うと、共通する不公平さや問題点に気付くことは、グループにとって大切なことです。私たちは、変化を起こす行動の核心や戦略のひけつに焦点を当てた本人活動の努力について、数多くの事例を耳にしました。これらの事例において、グループは明らかな問題や権利に関しての考えあり、変革に貢献するために、整備された行動をとっています。私たち、政治家への手紙や面会、メディアを利用した運動（キャンペーン）、政府へのプレゼンテーション、会議や国連、団体や政府でのリーダーへの立候補など多種多様な権利擁護運動があることを聞きました。

このような様々な異なる経験により、私たちは、本人たちが一体となる別の方法を学びました。多くの場合、本人活動グループは家族の支えがあって発展し、活動しており、その基となる組織は、独立した組織（例えば、ピープルファーストの組織）か、組織の指導部に助言し、貢献するグループ（付け加えると、組織がいかに本人活動を支援できるかに関して）かのどちらかです。

私たちは、知的障害者の能力や彼らの権利を守る法律への否定的な固定概念と戦います。

ヨルダン

私たちは、だんだん障害の有無を問わず「青年」を支える新たな本人活動グループを目にするようになりました。知的障害のある人たちが、一般の学校へ通学することで、社会的問題に共に向き合うグループの一員になることができます。

## What is Self-Advocacy? . . . . .

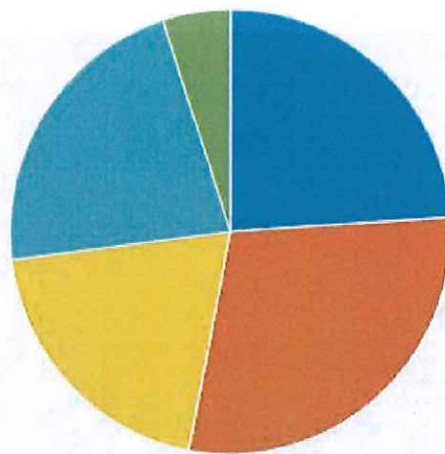
### 本人活動への新しいアプローチ

Movimiento Estamos Tod@s en Accion (META) は、2012年にウルグアイ、コスタリカ、ペルー、コロンビア、ブラジル、アルゼンチン、ホンデュラス、ドミニカ共和国、メキシコとチリの若い活動家たちが、障害の有無にかかわらず、全ての人の平等と機会からラテンアメリカでの包括的な発展まで、貢献者として、知的障害のある人たちの権利について活動するネットワークとして創設されました。

参照：Action4Inclusion、カナダ、オンタリオに本拠地を置き、若者がどのようなニーズを抱えているのか、あるいは障害のある若者が誰に何を求めているのかを理解するための支援をしてきました。

若者たちは、学友たちと一緒に働き、教育現場や地域の一員として、異文化交流の為に活動しています。知的障害のある学生たちが安心して参加できるように努めています。彼らは、全ての人がみんな学校や地域で、価値があり貢献できるメンバーであり、そう見られるべきと考えています。

私たちの調査では本人活動を組織するための色々な方法と本人活動の支援の在り方について様々な意見を聞くことができました。私たちは人権について活動している多くのグループがあり、運動を展開していますが、本当の本人となるために、自信とスキルを身に付ける必要があります。



● Campaigning or lobbying ● Rights of people with intellectual disabilities  
● Supporting self-advocates ● What is self-advocacy ● Other

青 キャンペーン活動/赤 知的障害者の権利/黄 本人活動/水色 本人活動って何？/緑 その他

## What is Self-Advocacy? . . . . .

本人活動グループは様々な重要な問題の特定と対処に取り組んでいます。



世界的に、本人活動の数や種類は急速に増えています。しかし、そのすべての取り組みが知的障害のある人達の声を代弁し、その声を強くするために本当に努力しているかどうかは明らかではありません。

施設の利益を図るために、本人活動グループを操り使うはっきりとした意図を感じる入所施設内に本人活動グループと呼ばれるものを組織している大規模入所施設の話聞いています。

ルーマニアには、独立した本人グループが一つだけあります。Ceva de Spus は、国レベルの運動を始めることに挑戦しています。また、サービス提供者によって作られた本人活動グループもルーマニアにあります。しかし、これらのグループの結びつきは強くありません。

ルーマニア

## What is Self-Advocacy?

### 本人たちは、自分たちについてどう思っている・・・

- ・本人活動は私たち知的障害のある人たちが  
私たちや私たちのような人のために、大切な  
事を自己主張する場所です。
- ・私たちは大きな変化を起こす事が出来ます。  
私たちは物事を決める人たちに、知的障害  
のある人の生活がどんなものなのかを話して  
理解してもらうことを助けます。
- ・私たちは地域で活動する一員となり、  
起こりえる重要な決断に関係していくこと  
が大切です。
- ・本人活動は、私たちが考え、感じる事全て  
です。他の人によって、何を発言し、何を思うかを言われることはありません。



でも

- ・私たちは喜んで、他のアイデアを聞き、学び、分かち合わなければいけません。
- ・私たちにとって、権利と責任や法律が私たちの生活について何と言っているのかを  
理解することは大切なことです。それは、地元、私たちの国、世界の法律かもしれ  
ません。
- ・私たちは、しばしば色々な人から助けが必要です。よい支援者は、私たちの考えを  
理解し、支援し、聞いてくれます。

人々は、話すだけでなく様々なやり方で声を上げていくことができます。あなた自身の  
心の声を聞こえるようにすることです。

## What is Self-Advocacy? . . . . .



本人活動はそれぞれの活動で孤立しているかもしれない人達に、活動に繋がるように促し、支援しています。

本人活動とは、私たちの為にいつも大切な意思決定してくれる人々（医師、サービス提供者、政治家や家族でさえ含む）、から私たち自身が意思決定をするという大きな力を交換します。

本人は、権利や責任について理解しなければなりません。私たちは、私たち自身と知的障害のあるすべての人々の為、平等な世界や包括的な地域を作りたいです。

本人活動は、意思決定する人と一緒に、私たちに影響を与えることについて、私たち自身がすべてに関わり、含まれるようにします。これは例えば、バスの時刻表が使いやすいかどうかのような小さなことであるのか、私たち自身に関する法律について、私たちの意見を聞いてもらっているかというような国レベルな事柄なのか、または障害者の権利条約（CRPD）のような世界的な運動というようなものまであります。本人活動は、地域社会で障害の認識を高めることです。私たちの運動を通して、知的障害のある人も地域の一員として平等であり、地域に貢献できるということを地域の人たちに伝えています。これによって知的障害のある人への態度を変化させ、差別を止め、より包括的な社会を作ることになります。

### 本人活動ではないこと

本人活動は、何かを決める時に室内で会議をすることでなく、その決断に関わっていくことが大切です。本人活動は私たち以外の誰かによって何を考え、何を話すかということを言われません。

本人活動は、人々を不平等に扱うことではありません。良い支援をうけることは、私たちが物事に関わっていくために、とても大切です。

本人活動は、私たちが言いたいことを言うだけや、物事を決めるだけではありません。



## What is Self-Advocacy? . . . . .



それは一部のことで、私たちは、自分自身で決断すべきで、私たちが何を言えるべきであり、私たちみんなが決める権利があります。しかし、本人活動はそれ以上です。声をあげる事と、私たちの生活にとって大切なことを決めることであり、また生活することであり、働くことであり、変化を起こすことです。本人活動は座って文句を言うことではありません。本人活動は、活発に変化を起こすために活動する事です。

本人活動は、変化を起こすために活動の一員となって、他の人、例えば支援者や政治家と一緒に活動することです。他の人たちと一緒に活動することは、人々に影響を与える良い方法です。私たちは、みんなが含まれ、社会に関連して欲しいです。私たちは、これらを実行するロールモデルとなる事を知っています。本人活動は、始めたり、終わらせたりするプロジェクトではありません。常に継続しているものです。世界はもっと、いつも包括的になることができます。

### 本人活動グループって何？

グループに属している多くの人たちは、本人活動の一員となる良い方法です。一緒に声をあげれば、大きな声になります。同じことを話す多くの人、人々に聞いてもらうことをもっと簡単にします。本人活動グループは、ボウリングやディスコに行くような社交のグループではありません。本人活動はこのような社交グループから成長するかもしれないし、そのままかもしれません。しかし、変化の為に一緒に活動し、人々の生活を良くすることが、本人活動グループが行っていく事です。グループ内には共有することができる色々な技術、経験や知識があります。私たちは私たちが声をあげていく必要のある知識やリーダーシップスキルを向上させるためにお互いに助け合うことができます。グループ内では、包括的でフレンドリーな環境の中で、疑問を投げかけ経験を共有することができます。

## 本人活動の当事者になるには何が必要？

知的障害のある人は誰でも本人活動の当事者になれます。以下が、意見を上手に言えるようになるための手助けになるいくつかの要素です。

本人は . . .

- 良いアイデアをもっています。
- 肯定的に物事を考えます。
- 根気強いです。
- 自分を知っています。
- 積極的です。
- 情報をえられます。



もしあなたがその素質がないと考えているならば、これらは、あなたが学ぶことのできるスキルです。もしあなたがグループの一員であるならば、そのグループの中で、あなたがこれらの素質を持っていると思う人たちと話し合い、どのように向上するのかというアイデアを共有します。



## What is Self-Advocacy? . . . . .

本人活動の当事者であることは、活発な仕事です。当事者だとただ名乗ったり、そのようなふるまいをすることはできません。以下が、当事者がすることです。

当事者とは . . .

- 他の人の事を知ります。
- 会議に貢献します。

- 他の人と一緒に活動しま
- しっかりと置いて頼りになります。
- 活発に役割を担います。

- 耳を傾けます
- いつももっと知りたいと思います。

- 変化を見たいです。
- 自分ができる一番の活動をするためにスキルを用います。
- 世界中の本人活動に興味を持ちます。

- 発言します。
- 質問します。
- 挑戦します。
- 聞いてもらえるようにします。

- 決断します。
- 自分が誰なのか、グループが何をしているのかを話します。

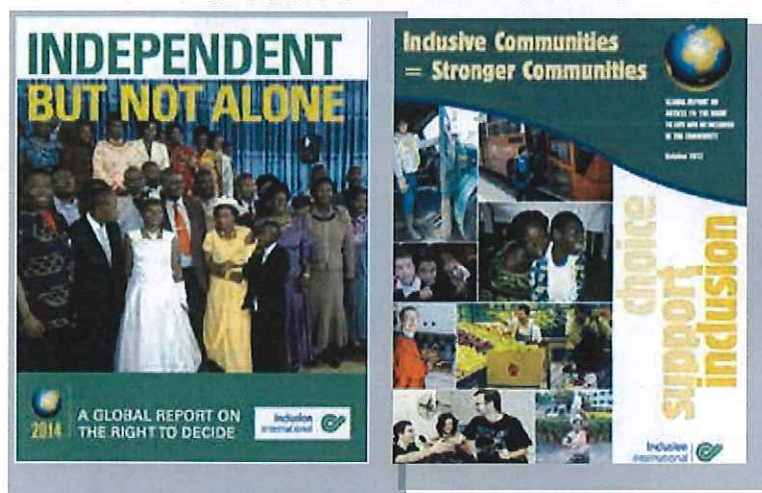


自分が出来ない事を話したり、仲間に入れなことを話すことに不安にならないことはとても大切です。

自分より経験があり、他のスキルのある人と話をするに前向きでなければいけません。そうすれば、他から学び、それは自分自身を成長させる良い方法です。

## 良い支援って何？

何かを決めなければいけない時や判断に迷う時、あなたは一人でかंगाえますか？それとも誰かに相談しますか？私の場合は後者で、相手は友人や同僚や家族、そして先生や医師が良い例です。内容は様々で、話を聞いてもらうだけのこともアドバイスを求めるときもありますが、どちらにしてもその過程は私の決断に不可欠です。ところで、知的障害のある人たちは「意思決定」が難しいと言われます。なぜでしょうか？最初に挙げられるのは、それぞれの障害への無理解です。そしてもう一つは障害のある人たちの貧しい人間関係です。障害のある人たちは、一緒に暮らしている家族と支援者という狭い人的ネットワークの中で生活していて、私たちのように多彩な人たちとの関わりを持ってないからです。

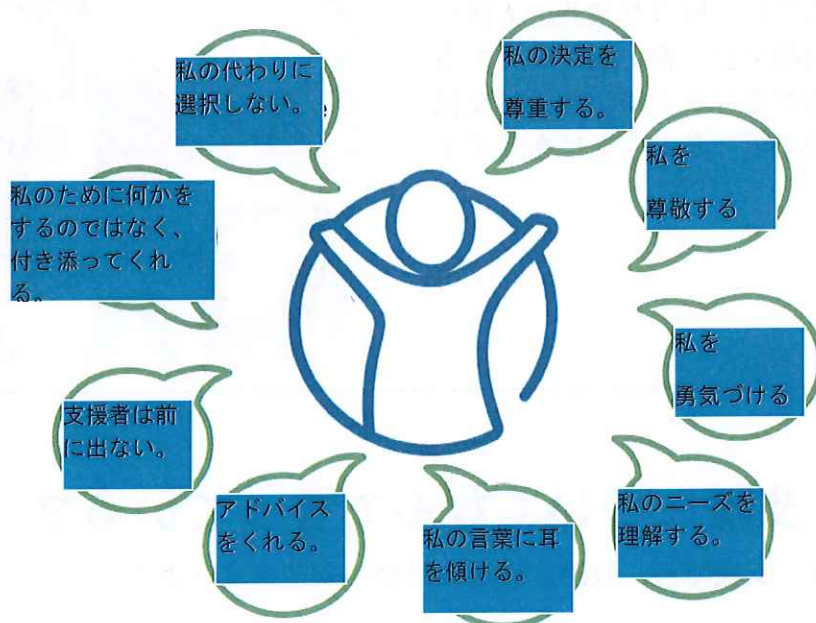


国際育成会連盟の世界的な運動（グローバルキャンペーン）一人権、共生社会、意思決定の結果によると多くの知的障害のある人たちは、家族と一緒に暮らしています。そして、家族は保護者であると同時に、人権擁護者であり、支援者です。ちなみに家族に対する支援は豊とは言えません。なお、その他の支援者としては支援を職業とする有償の（有償の支援者がいる地域の場合ですが）教師、医療関係者、ソーシャルワーカー等があります。

## What is Good Support? . . . . .

国際育成会連盟は、知的障害者に「支援」について語ってもらったことがあります。彼らの言葉を借りれば、支援には、彼らの考えや意見や決定を促す良い支援と、逆に決定してしまう悪い支援とがあります。

彼らがあげた「良い支援の条件」は以下の通りです：



私たちが、世界各地を訪れ、調査をした中で、残念ながら、すべての支援者が上記の条件を満たすとは言えませんでした。それどころか、自分の仕事は知的障害者を「コントロール」し、「保護」し、「操作する」ことであると信じている支援者が少なからず存在し、中には知的障害のある人は「無能」で、「理解力のない」人達なので、「普通の生活はできない」と公言する人もいます。

支援者は、信用でき頼りになります。憐れむような態度はなく、本人達を勇気づけます。ニーズや希望を理解しています。 南アフリカ

SOUTH AFRICA

## What is Good Support? . . . . .

次に、本人活動の支援についてお話ししましょう。個人的な支援（勇気づけ、自己肯定感を育む）が大切なことは言うまでもありませんが、それとは別に、本人活動に対する支援も重要です。本人活動に対する支援としては、本人活動グループの結成、会員間の人間関係作り、様々な情報や人権に関する情報提供、会員間の話し合いを活性化するファシリテーション等がありますが、個人的支援とは異なる支援技術が必要であることは言うまでもありません。



### 本人たちは、支援についてなんて言っている？

「支援者」とは、家族、支援職員、教師、現場の同僚、友達を含みます。

- ・ 良い支援者は、私たちに勇気づけます。
- ・ 良い支援者は、本人活動にとって重要なことは「私たちがどう考えるかであること」を理解しています。
- ・ 良い支援者は、社会に存在する私たちへの偏見を十分理解した上で、支援します。そしてその障壁を取り除くことが、支援者の仕事の一つであることを理解しています。



- ・ 支援者は私たちが何かを選択するとき、その選択を尊重しなければなりません。別の言葉で言えば、私たちが失敗したり、リスクを冒したりすることを認めなければなりません。
- ・ 支援者は私たちに影響を及ぼす存在であることを肝に命じ、意見を伝えることはしても、指示をしないように気をつけなければなりません。

知的障害のある人は、言われている以上に、色々なことができるという頑固な信念と、十分な忍耐がある人 クロアチア

支援者の仕事ってなに？  
個々への支援

- ・ 私たちが、その能力を最大限に発揮して発信し、意思決定し選択をすることを支援します。
- ・ 私たちが複雑な情報を理解できるように支援します。
- ・ 私たちが日常で、遭遇する様々な事柄、例えば、人間関係、健康、お金、仕事のことなどで決断をすることを支援します。
- ・ 支援者は、介護者ではありません。
- ・ 私たちの支援を望まない人は支援者ではありません。
- ・ 会議の場における支援者の仕事は、単に難しい単語を説明するだけでなく、私たちが自信を持って発言できるように支援することです。



## What is Good Support? . . . . .

一人の支援者と一人の知的障害者の関係は、永続的なものではありません。むしろ支援を受ける側のニーズによって支援者は変わるべきです。ただ大切なことは、支援者間のネットワークが盤石であり支援をうける私たちが安心して頼ることができることです。

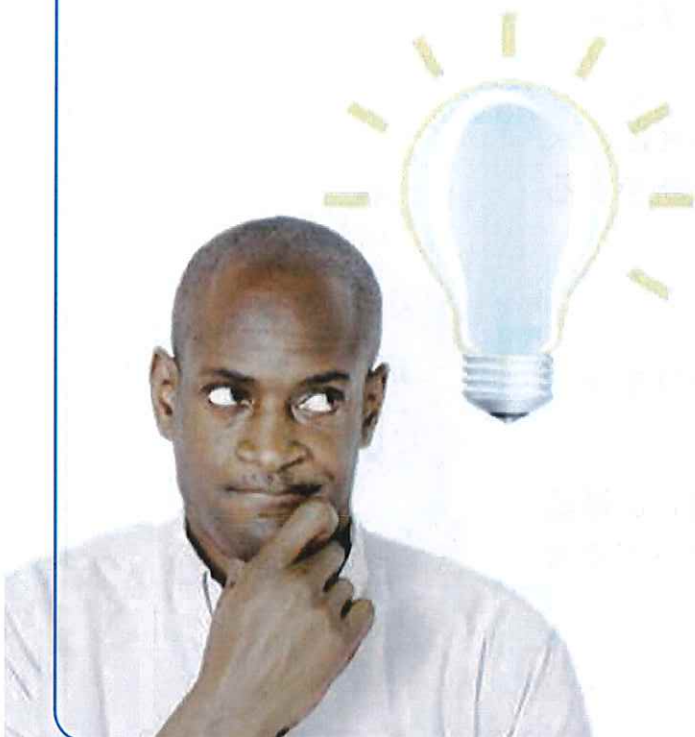
### 本人活動支援

私たちの権利と義務について理解できるように支援します。なお、その一部には法律とそれが私たちの生活に及ぼす影響について、私たちが理解できるように支援することがあります。

会の運営について支援します。これには、リクレーションに出かけるという小さなことから、組織や資金集めといった大きなことまで様々なことがあります。

本人活動は、地域内の活動にとどまらず、全国的、もっといえば国際的な活動もあります。よって支援の内容には以下も含まれます。

- 私たちが現行の法律や規則に対して挑戦することを支援する。
- 地域の活動グループが重要なことについてキャンペーンをはること（運動すること）を支援します。
- 国内外の大会に出席するための移動手段の手配を支援する。



## 良い支援は

- ✓ 私たちと頻繁にコミュニケーションをとります
- ✓ 私たちを信頼します
- ✓ 私たちの能力を高める支援をします
- ✓ 私たち自身がニーズに目覚めるための支援をします
- ✓ 支援者として専門家である、同時に私たちと楽しい関係を築きます
- ✓ 私たちと相互に尊敬できる関係を築きます
- ✓ 私たちに対して心を開き、信頼し、かつ辛抱強く接します
- ✓ 考えを適切な言葉で説明します
- ✓ 私たちが必要とするとき（常にではない）に、選択肢を提示します

## 悪い支援は

- ✗ 過保護
- ✗ 支援に対してお金を払えない知的障害者の支援を拒否します
- ✗ 私たちのやる気をなくさせ侮辱します
- ✗ 私たちの自己肯定感を喪失させる言動をします
- ✗ 私たちを利用します
- ✗ 私たちが望む支援ではなく、支援者が望む支援をします
- ✗ 私たちを操作します
- ✗ 私たちがすべきこと、またはすべきではないことの説明をしない



# 家族と本人活動

知的障害のある人々の生活において、家族は多種多様な役割を担っています。家族によるケアや愛情だけでなく、知的障害のある人々はまた支持者や地域の人に守られています。私たちは、グローバルな研究と世界中の家族との話し合いから、ほとんど、または全くサポートが無い場合でも、家族が本人の権利擁護に関する担うことを知っています。多くの家族にとって、自身の役割を学び、管理する必要があります。

私たちが様々な文化やコミュニティの中で、権利擁護の例を研究した結果、全てに共通して、家族の在り方は重要な役割を果たすということが分かりました。話すことができない人や親しくない人には理解できないコミュニケーションをする人たちにとっては、家族の役割は必須です。

権利擁護の視点から見ると、家族は彼らの最大の支持者でもあり、独立へむけたチャレンジャーでもあります。家族による強いサポートと、勇気づけがなければ、知的障害者は、地域から独立し、除外されたままになります。地域が知的障害者に対して未だ否定的な対応をした場合は、家族は前向きにアクションを起こします。





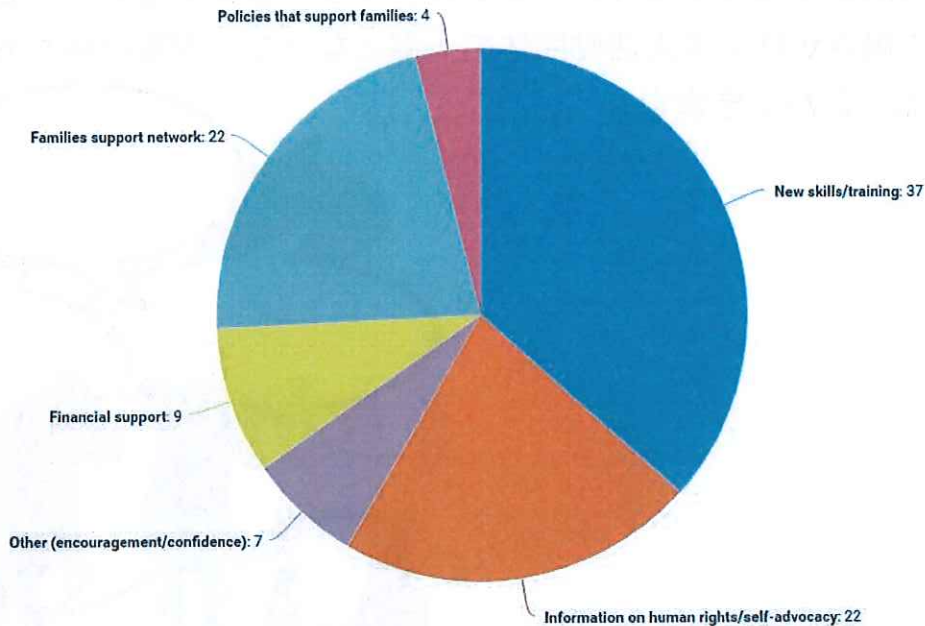
## Families & Self-advocacy . . . . .

個人の生活における本人活動と、コミュニティを変革するための団体における本人活動を考えるとき、学校や地域や雇用の現場などで、自分の家族を受け入れてもらおうとしている家族の包括的な役割と経験への理解は大切です。

家族がコミュニティに参加し、しっかり権利擁護されることに成功している家族がいます。彼らは常に、ネットワークをサポートし、関係性やネットワークを作る機会を生むことによって成功してきました。サポートと人とのネットワークを持つことは、インクルージョンと自己決定の基礎です。

家族の目標や夢が地域社会のインクルージョン、尊重、受け入れであると聞いたことがありますが、支援やネットワークの構築の代わりに、治療や障害に関わるサービスに重点をおいてしまうこともあります。

人々が自らの生活の中で当事者になり、社会に変化を起こすような本人活動を発展させるために、家族支援について多大な焦点をあてることと調査がされなければなりません。家族がこれらの役割を効果的に果たすために必要とすることをいくつか



## Families & Self-advocacy . . . . .

世界中のグループとの協議から、本人活動の団体はたいていの場合、家族をベースにした組織であることが分かります。知的障害のある人々の声をサポートし、強化しうる必要性を理解しているのが家族です。私たちの運動の歴史を通して、本人活動のための責任を負うのは、家族であり、家族をベースとする組織です。

人権団体やその他の障害者団体がこのような取り組みに加わり始める中で、家族の役割についての批判や拒否がみられます。家族が果たす役割は（保護からエンパワメントへ）変革していく必要があるのかもしれませんが、包括的であるコミュニティの役割の構築、家族とその組織への支援、家族の支援ネットワークを継続することで、この変革が行われるのです。

### 家族にとっての本人活動ってなんだろう？

- 本人活動は家で始まります
- 家族は私たちが話をする時に、自信が持てるようにサポートしてくれます
- 地域との関係が立ち上げられれば、家族たちは本人活動ができるようにサポートすることができます
- 意思決定や話をする等、インクルージョン教育を進めることで、変化のために働きかける本人活動団体の一部となって、家族は私たちをサポートすることができます。



## 家族と本人に何が起きているのか?

世界中の家族や本人は、知的障害がない健常な人と同じことを望んでいます。:

- 障害がある人を受け入れる社会
- 人々が大切に扱われる社会
- 本人や家族が幸せになる機会を平等に与えられる社会

過去には、家族の団体は、上記の問題において多くの運動を行ってきました。今日、障害者本人は、発言して物事を変えています。障害者の家族は、これが公正で正しい事だと理解しています。知的障害者は自身の人生について（こうありたいよいうことを）発言するべきです。

知的障害者の家族の大半は、本人にとって第一の介護者・理解者であり、支持者であり保護者です。本人を支援する家族の関わりは、常に大事なものです。障害者の家族がどう感じて活動するかは障害者本人を生かすか殺すか、決めてしまう要因になりえます。家族が若い人をどう育てるかによって、大きな違いが生まれます。彼らの自信やや大人としての生き方には大きな違いが出てきます。

しかし、障害者に対する知識が乏しい事からとられる冷たい態度や、地域のサポート不足や経済的重圧が、世界中の知的障害者の家族の課題を難しくすることもあります。これらが問題となり、家族が過保護や不信な状態になります。

障害者自身は口を揃えて言います。「家族は、私たちを支援し、自立できるように私たちを勇気づけてくれます。家族が過保護で、コントロールしがちであると、本人の生活を制限して隔離してしまいます。このことで、本人が満足し、良い生活ができなくなります。」



家族は「守る人」からシフトすることを、そして「実現する人の介護者になることのサポートを必要としています。知的障害者の家族でリスクがあることや、選択肢を作る事を推奨してサポートする人たちは、私たちが学び、発展するのを助けてくれます。人生の中で皆さんのように失敗する経験や挑戦する経験をするのは、独立するための大きな役割となるのです。



### 本人活動の実現のためには、家族は何ができるのでしょうか？

家族が私たちと協力して、本人活動を実現する技術と能力を得るための小さくて大きな方法があります。家族はしばしば多忙で働き過ぎています。しかし、私たちが必要とする技術を発展させるためにサポートすることは、私たちが満足で包括された生活を過ごすのに

- 家族は、私たちが常に地域の生活に包括されていると確信します。このことで、私たちは大切にされている、受け入れられている、自分は世界の一員なのだと感じます。その意識は、社会のメンバーとしての権利と責任を理解するのに役立ちます。また、地域の中で、障害を理解して受け入れるのにやくだちます。
- 家族はしばしば、彼らの家族のメンバーが若いころから、彼らを擁護してきました。彼らは医者や教師や、人々が必要としているサポートが分かるサービスの提供者に助けられてきました。いつも会話に引き込んでくれることで、私たちは自分自身について話すことの必要性を理解しました。
- 家族は知的障害について出来る限りのことを学ぶことができます。そして、知的障害のある人とこのことについて話をして時間を過ごす事ができます。こうする事が知的障害のある人を支え、彼らに対して意味をなします。
- 家族は障害があるのがどのような気持ちなのかを聞くことができます。このことは障害についてどのように話せば良いか、理解するのに役立ちます。障害について話が出来るという事は、私たちのアイデンティティに慣れたり、他の人々がどうやって私たちと関わるか考えるのに役立ちます。

## Families & Self-advocacy . . . . .

- 知的障害者の家族と話しをしたり、話を聞く時間を作ることはまた、私たちのコミュニケーションスキルをあげる事にも役立ちます。また、必要と思われるサポートを理解し、尋ねる方法を学ぶのにも役立ちます。
- 家族は権利擁護の原則を理解し、私たちが権利擁護者になるために必要なスキルについて学ぶため、自分自身を訓練する必要があるかもしれません。
- 家族は、サポートやサービスを提供するグループや組織を見つけることができます。情報や経験を他の家族と共有することは、家族を助けますし、本人を更に大きなコミュニティの一員にします。  
そうすることで、家族や本人が「ひとりぼっちではない、彼らをサポートする同僚がいる」と知る手助けになります。
- 家族は私たちに、独立した本人活動の支援を受けることを許可すべきです。  
多くの場合、これは可能ではないかもしれませんが、本人が支持者を選ぶオプションがある時、このことは、本人の自己決定の役にたつでしょう。



## どのように家族は本人活動を推奨できるか

ご本人と家族に聞いた、家族にできる、ご本人がご本人らしくある為のサポートの方法

・・・たくさんの中のいくつかを紹介します。

- 人を許容します
- 辛抱強くあります
- 肯定的です
- 支援者の技術の育成をします
- 新しいことをする機会を作ります
- 人を勇気づけます
- 自立を促します
- 必要な時は、支援が必要か尋ね、支援します
- それぞれの能力に期待します
- 自分自身に自信を持ちます
- 選択肢を用意し、自己決定を促します
- 情報を共有します
- 本人活動のロールモデル
- リスクを冒すことを許します
- 自立をすすめます

# インクルーシブオーガニゼーション（包括的な組織）

国際育成会連盟には、世界のネットワークにおいて、さまざまな種類の組織が属しています。

多種多様なサービス提供を行う大きな組織や家族や本人のグループ等の小さな組織があります。世界各地で、これらの組織は、例えば、知的障害者が地域社会で生活するための支援を提供するなど人権と共生のための運動と主張をおこなっています。子供たちを学校に通わせるための家族支援、本人達の医療機関利用方法、雇用、地域社会のサービス利用など擁護支援を提供しています。

また、一部では、直接的な知的障害者雇用支援、パーソナルアシスタント、住宅供給支援などを行っています。多くのこれらの団体は50年以上の歴史があり、長年にわたり、支援の仕方を変化させていきます。

その他に、本人や家族によって始められた知的障害者を支援する新しい阻止区やグループもあります。これらすべての組織が、知的障害者の権利擁護を支援する上で、とても大切な役割を果たしています。これらの組織にて包括的なアプローチを取り入れていくことにより、これらの組織は、コミュニティや社会が知的障害者を取り込んでいく方法を変えることの助けとなっています。私たちの調査とインタビューから、組織が本人活動について以下の点で、関わっていることがわかりました。

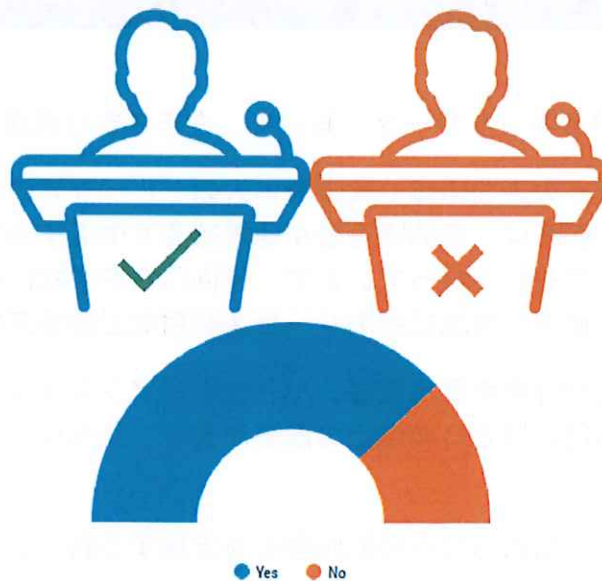
- リーダーシップと組織運営（役員や雇用主としての参加）
- 運動（キャンペーン）
- 本人活動の技術の構築と本人活動グループの支援
- サービスの供給

.....

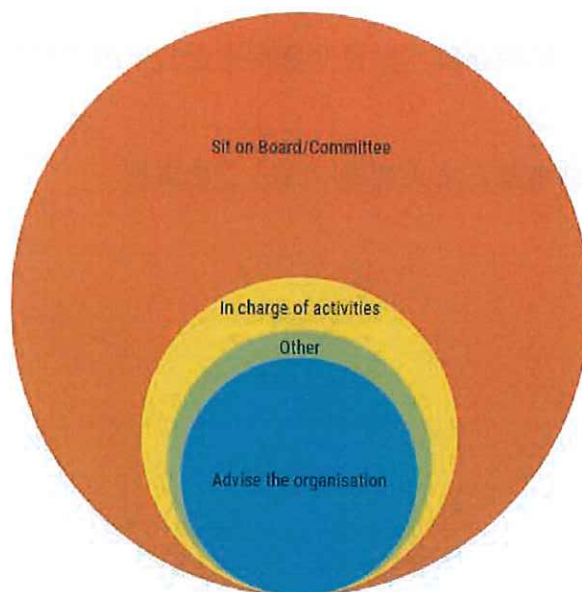
## Inclusive Organizations

### リーダーシップと組織運営:

調査のほとんどの回答者(76%)は、本人達は、それぞれの団体の組織運営に関わっていると回答しています。



多くの団体は、理事会、助言者グループと役員会に本人たちを入れています。また、本人たちは、組織の運営にも関わっています。(地域イベントなど)



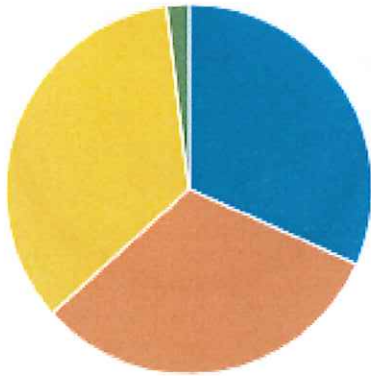


.....

### キャンペーン（運動）

団体運営などのほかに、本人たちは、角界のリーダーたちに話をしたり、他の本人たちを勇気づけたり、変化の為の運動をしたりして、組織がそのゴールを達成するために、とても大切な存在です。

障害のある人たちは理事たちによって  
与えられた機会に支援したり、参加します。そして  
国内や世界でのさまざまな機会や招待、例えばシンポジウム  
のパネラー、グループを代表してのフォーラムに参加し  
ます。 コロンビア



- Campaign for change
- Talk to decision makers
- Work with other self-advocates/orgs
- Other

.....

## Inclusive Organizations



組織の中での関係性とリーダーシップを意味深くし含むことは、応用する力と組織がどのように働くかという変化と特別な本人への支援を必要とします。私たちは、団体が異なる役割の中で支援している様々な方法を聞いています。



読みやすい  
資源の提供



本人たちへの  
トレーニングの提供



会議支援



支援者の提供

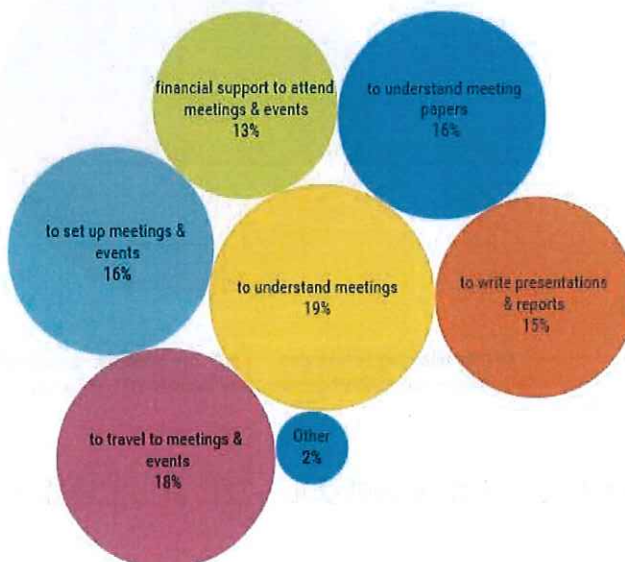
.....

## Inclusive Organizations

本人たちは以下の支援を受けていると言っています。

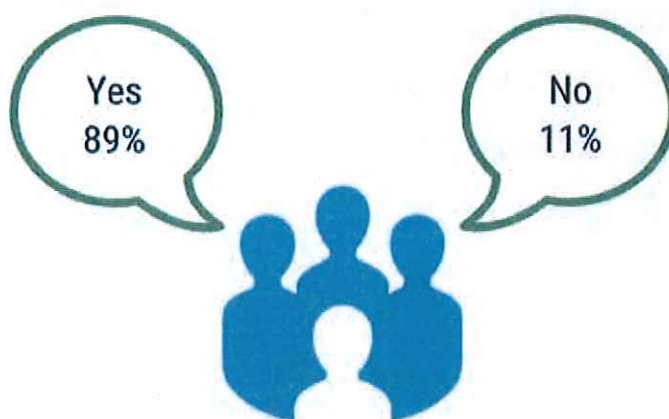
- ・ 会議資料の理解
- ・ 会議やイベント参加のための経済定期的な支援
- ・ 会議やイベント開催の準備

Self-advocates say they get support to...

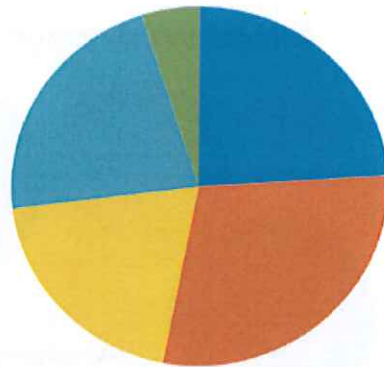


## スキルとの構築と本人活動支援

団体数の増加は本人活動を支援する過程を向上し、地域の中で変化を起こす本人の強さを育てます。これらの計画は、本人達のスキルと自信を構築する本人活動を支援する事、本人たちの生活にとって大切な事柄を理解できるようにグループを支援する事、権利擁護とその運動の為の活動を計画することを含みます。団体の 89%が本人活動を支援する時にスキルと知識の向上の構築に焦点をおくということを知りました。



団体の役割は本人活動の実現、人権と地域擁護についての運動です。



● Campaigning or lobbying ● Rights of people with intellectual disabilities  
 ● Supporting self-advocates ● What is self-advocacy ● Other

様々な運動や活動をしている本人活動グループによって確認された事柄と優先事項についても聞きました。



国連の障害者権利条約にある私たちの法的能力についての12条と地域の一員として生活し、私たちの人権を侵すような入所施設に行かされない権利についての19条を基礎に、私たちの権利を守るために本人（当事者）となり戦います。また行政と協力して、会議に参加し発言したり、地域におけるサービスを作ったり知的障害の人たちのための常識的な評価を構築するなどの活動をします。 メキシコ

障害、おかれている環境、他の人と同じように価値があるというアイデンティティーに対する社会の視点と私たちは、他の人と同じように私たちも他者を尊敬し、向上し、愛することができます。 スペイン

入所施設の閉鎖、人として私の事を見てくれる地域、もっと良い住環境、多くの支援と雇用の支援 カナダ

## サービスの提供:

知的障害者へのサービス提供を行っている組織が「支援者が知的障害者のために様々な決定をする事」から「知的障害者自身が意思決定をするための支援を行うこと」への考え方を変えさせることがこれからの挑戦です。国際育成会連盟の会員団体の多くは、この変更を実行するためにそれぞれの団体ごとに任務と計画を入れている。:

- 家族やサービス提供者が常に、家族主義的な（保護されるべき）存在から、障害のある人がその人の生活では中心であり、個々の意思や嗜好を尊重することが最優先であることを知っていると思定する。
- 安全を心配する両親に代わって『管理者』であることから個々の嗜好と選択に基づく地域への参加を『手助けする人』になる。
- 専門的なサービスを提供することから、日常的に、個々に合ったプログラムと設備の中で、社会的な支援を自然と受け包括的な社会を構築する。

組織とのインタビューの中に、一貫したメッセージがありました。彼らは自分たちが行っている活動を分かち合い、他の団体がどのように障害のある本人たちを支援し、受け入れているのかを学びたいと考えています。

## 本人たちは団体についてなんて言ってる?...

- 知的障害者と一緒に活動している団体は本人たちを支援し受け入れる点で大きな役割を担うことができます。
- 知的障害者と一緒に活動したり、包括、自己選択を支援することにより団体は、社会の中で変化を促進することができます。



## どのような団体が本人を支援している?



知的障害者と一緒に活動している団体はたくさんあります。

団体は、知的障害者とその家族にサービス、支援、配慮、情報を提供します。団体は、知的障害者とその家族に一つ以上のサービス提供を行い、その人の生活において重要な役割を担っています。

知的障害者と活動を共にしている団体は、様々な場所からお金を得て、これによって、より別の方法での活動が難しい事を知っています。

いくつかの団体では基金があるので、知的障害者をケア（介護）が必要な人として捉えていて、個々に意思決定し、自己主張できる一人の人として捉えることが

難しくなっています。

すべての団体は、もっと知的障害者を受け入れ、支援するよう変わることができます。本人を支援している団体は、私たちにとって大切なことを私たち自身が声を上げることができるようにし、強靱な包括的地域社会の構築を理解しています。

これらの団体は、知的障害者と一緒に行動する人たちが知的障害を理解できるように養成し支援しています。彼らは変化を起こす為に、知的障害者本人と共に働きます。

## 包括的団体は何をしている?

- 団体は、社会の中にあるバリアを取り除くために、理解し、広報し、働いています。
- このように活動している団体は、バリアの存在しない世界を広報する中で、大きな役割を担っている事を理解しています。彼らの活動がそれを表しています。

## Inclusive Organizations

- サービス提供している団体は、サービス利用者は常に選択でき、支援と包括を受けます。利用者は彼らが発言することが奨励され、支援されます。
- 団体には、包括的な重大な決断をする方法があります。これは、包括的管理 “Inclusive governance” と呼ばれます。例えば、知的障害者の評議員や理事がいる団体などです。
- 団体が運動をする時には、知的障害者本人たちと一緒に、知的障害者の権利を広報する包括的な方針の為の運動をします。
- 団体はあえてリスクを恐れません。一緒に活動する知的障害者本人たちに対して、団体が”責任がある”とは考えません。一緒に活動する知的障害者本人に、リスクテークと彼ら自身の選択があることを理解しています。
- 団体は知的障害者とその家族をと社会をつなぐ橋となっています。団体は、包括とすべての人の関係性について運動します。
- 本人活動グループへの支援者を集めたり、派遣したりする  
団体は、本人活動と団体が考えるものと違うことを理解しています。
- 知的障害者を支援する団体は支援する人々の重要性を知っています。これらの支援者は尊敬され優遇されます。彼らは助けを与える人ではなく障害のある人たちが自分たちの権利と地域での彼らの居場所を理解する支援を行います。





## 包括的団体（Inclusive organization）にとって良い実践とは？

包括的団体としての決意表明する良い活動の方法があります。

### 包括的意思決定

団体は、重要な決定を行う時には、包括的意思決方法をとることができます。これは、包括的運営（Inclusive governance）と呼ばれます。

包括的運営は、知的障害者本人の意思決定を受け入れ、その価値を見出す団体にとっては大きな一歩となります。

包括的運営は、団体は知的障害者本人が自分自身の生活の中で何が大切かを知っているということを表しています。



包括的運営とは、団体に意思決定をするための正しい知識と価値観を持っている知的障害者を採用するという意味です。また、本人に寄り添い、良く管理された支援を個人や人々に対して提供することです。

包括運営が正しく行われているという意味は；

- 誰によって重要な意思決定をし、どのような決定をされるかという団体のルールを変更する。
- 会議の方法を変える事、会議の頻度や長さを変える事、会議でどのように意思決定がされるかということ。
- すでに重要な意思決定をした知的障害者本人への研修を支援を提供すること。

## Inclusive Organizations

### 包括的会議

包括的会議では、知的障害者本人が本当の意味で関わり、自身の意見を述べている事を確認します。会議が包括的である方法は；

- 議題や報告が、会議前に必ず配布されていること。
- 他の参加者と同様の情報を得ている支援者が必ず参加していること。
- 質問などがしやすいように会議の窓口となる人がいること。
- 理解しやすい言葉を使った情報や書類、その他の資料が用意されること。
- 議題を追うことができるよう事前に電話での説明や、事前のミーティングがおこなわれること。
- 会議中には、基本となるルールを（例えば同時に数名が話さない、お互いに尊重し合う、時間を守るなど）を会議参加者が守ること。
- 十分な会議時間や休憩時間を取り、議題通りに会議が進められること。
- さまざまな方向で、知的障害者本人が考えることができるよう創造的な活動が行われること。
- 次の議題に進む前に、何が同意されたポイントなのかを振り返ること。
- 会議の終わりには、会議の進行はどうだったのか、次回の会議で変更する点があるのかを振り返る時間を持つこと。



## Inclusive Organizations

### 包括的な求人と研修

団体職員の求人と研修では、正しい知識と技術を持っている人というだけでなく、正しい価値観と態度を持ち合わせる人であることを確認します。

求人の過程では新規採用者に対して、包括（inclusion）と人々の可能性について学ぶことを支援します。

正しい価値観を持ち合わせる熟練した職員がいるということは、知的障害者と活動する彼らの仕事は包括的に行われるということです。彼らは、介助を与えてくれる人ではなく当事者に可能性を与える人たちです。

知的障害者への直接支援を行っているスタッフだけでなく全てのスタッフが、包括的な方法で求人されています。これは団体でのすべての活動を通じて、包括的な方法で、団体が運営されているということです。

業務内容の確認、候補者のリスト作りと面接などの過程から、知的障害者が求人にも関係するべきです。

新規採用職員の為の有意義な研修や職層研修などと同様に、以下の研修も実施されています。

- 障害者の人権
- 人中心の支援の方法
- 選択の為の支援方法
- コミュニケーション
- 本人活動



## Inclusive Organizations

### 知的障害者雇用

知的障害者の雇用は、団体が包括的であることを表しています。障害者雇用は、団体が掲げる理念を実行し、地域社会の代表であることを表しています。



- ・ 仕事と業務は意味があり、有意義でなければなりません。向上の機会もなければなりません。
- ・ 給与など全ての雇用契約と雇用条件は、適正で平等でなければいけません。
- ・ 包括的にみえるような仕事を作り出すことは、助けになりません。
- ・ 仕事における支援は、最初から良く検討され、運営されなければなりません。

### 包括的地域のための運動

あなた自身が地域に暮らすすべての人々への価値観や意見を求める地域の一員であることは、人々をととても強くします。これは、知的障害者やその家族が、自信を持って声を挙げ、選択し、情報収集や支援を得ることを助けます。

例えば、教育者や雇用者と一緒に活動することにより、障害のある人が地域での人間関係を構築する支援において、団体は重要な役割を担っている事を理解すべきです。

地域活動への投資は、もっと多くの地域が知的障害者が良い人生を生きる為に何を欲し、必要としているのか理解し、価値を認め、声を聞くことにやくに立ちます。

.....

## Inclusive Organizations

### 支援グループへのヒント

#### 始めるとき

- 団体は、本人活動に興味を持っている人や積極的に活動している本人たちを知っていてこの人たちに声をかけ、集めて、グループの計画を立てることができるかもしれません。
- もし本人活動の経験がなく、自分たちの意見を主張することができなくても、団体は本人活動に関する研修を行うことができます。
- 団体は、本人活動グループがどのように活動し、どのように意見をまとめ、リードしていくのかを考えていくことを支援することができます。
- 団体はまた、活動計画やそのゴール設定について支援することもできます。グループのメンバーがどのくらい経験があるかによって、団体は、広い意味での方針、法律や知的障害者に係る事柄についてグループが理解できるよう支援することができます。

#### 実地的な取り決め

- 団体は本人活動が利用できる場所を持っているかもしれません。
- 団体は、支援者やファシリテーターのグループを派遣することができます。
- グループを調整して、人々のための接点となり、実地的な取り決めを手伝うことによって組織は支援することができます。例えば、会議の場所や時間をアレンジしたり、本人たちの移動手段を支援したり、理解しやすい書類や情報を書いたりします。

### その他の団体の本人活動グループ支援方法

- 権利擁護とは、本人が何を思い、どのように感じているかということです。団体は本人活動グループが自分たちにとって何が大切な点なのかを意思表示できるようにしなければいけません。本人活動グループは、団体が行っていることに同意しなければいけないと感じるべきではありません。
- 団体は、本人活動グループが権利擁護リーダーシップを促進できるような支援をしなければいけません。本人活動グループは、そのスキルを向上し、活用できる機会を探す支援をされるべきです。
- 地域の中で活発に活動している本人活動グループは、成功します。団体は、本人と社会の間にあるギャップの橋渡しとインクルージョンのロールモデルによって支援することができます。
- 本人活動グループが資金を得る方法を助けること自体が、自立を促進する大切なステップとなります。
- 繋がりを持てる本人活動グループが、地域や国内にもっと沢山あるかもしれません。資金調達のアイデアなどの良いアイデアを共有することは、本人活動の運動を強くすることを助けます。団体は本人活動グループ同士のつながりを促進すべきです。
- 団体から独立する自信のある本人活動グループについては、独立したグループとなっています。団体は、この本人活動グループの変化を支援できます。



# これからに向けて



私たちが集めたお話や経験から、世界中で本人活動が始まり、増えてきていることがわかりました。「権利擁護」の意味は・・・

- ・ 個々のエンパワーメント(権利の拡大): 個々が意思決定と自己実現をするために支援されること;
- ・ 仲間同士の助け合い: お互いの意見を聞き、支え合うこと;
- ・ 行動のための指示: 地域の中で、行動と指示のための優先順位を一緒に定めること

障害者の人権についての国連の大会は、知的障害者がそれぞれの生活の中で意見を聞かれる権利と、地域に含まれ意見を聞かれる権利を保障しました。また、知的障害者は、選択肢があることと、彼らの生活をコントロールすること、インクルージョンのための活動家と擁護者になることを支援される権利を持ちます。

知的障害者が技術を習得し、自己実現を持てるように、聞いてもらえる選択肢と意見を持ち、結集して地域の中で変化を起こす行動をとるため、本人活動のリーダー達、家族、団体、行政、地域社会は一緒に活動すべきです。

国際育成会連盟の世界的なネットワークを通じて、私たちは権利擁護のための多くの良い事例、情報やツールがあります。私たちが挑戦することは、情報を収集し、分かりやすくして、本人たち、家族や団体に提供できるようにすることです。

## これからにむけて

本人活動のリーダー達の指示のもと、国際育成会連盟は **Empower Us** (エンパワーアス) を始めました。エンパワーアスは権利擁護を支援する世界的なグループです。

本人は:

- ✓ お互いに高め合います。
- ✓ 一緒に学びます。
- ✓ 経験を共有します。
- ✓ グループを組織し、支援します。

支援者は:

- ✓ 自分の役割を理解しています。
- ✓ 自分の経験や情報を共有します。
- ✓ 本人たちから学びます。
- ✓ 技術を向上します。

家族は:

- ✓ 本人を理解し支援します。
- ✓ 支援の組み立てのため方法を共有します。
- ✓ 必要とするサービスを見つけます。
- ✓ 一緒に学びます。

団体は:

- ✓ 包括的になります。
- ✓ 本人活動を支援します。
- ✓ 選択と包括に則った支援者を派遣します。
- ✓ 他の団体と方法を共有します。

エンパワーアスは本人たちによって組織・運営され、そして交流のプログラム、ワークショップとフォーラムを支援するための活動プログラムと同様に、ツールと資源を共有するためのオンラインでの討論の場も含みます。私たちの世界的なネットワークを通じて、個人や団体を集めることにより、この最初の考えは世界中の権利擁護とインクルージョンを芽生えさせ育てる事を助けます。



.....

# Notes

25/04





# Notes



